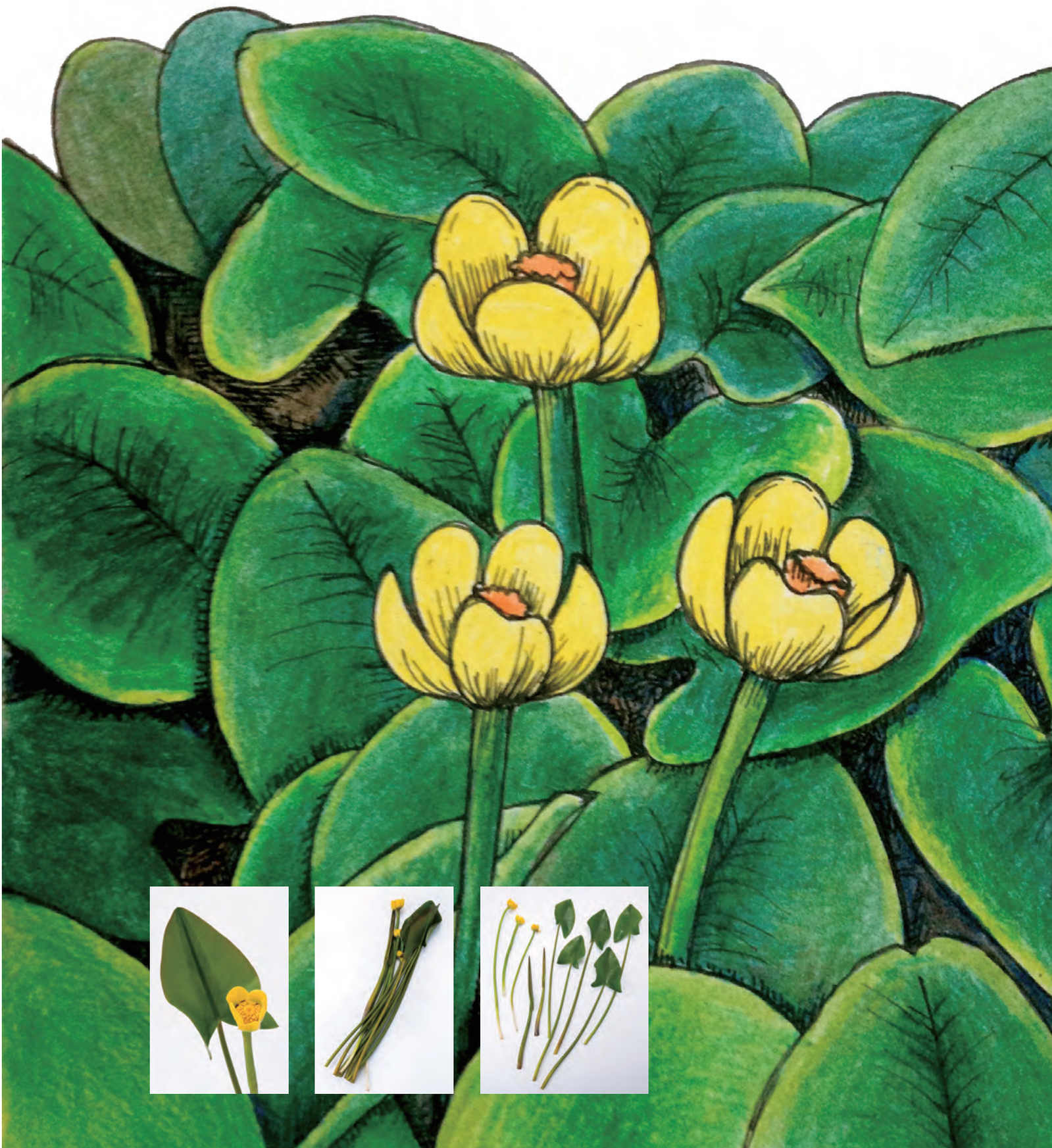
コウホネ

Nuphar japonicum



コウホネ

使用部位

使用する季節

夏

作品例

華道家元池坊

小原流
写景盛花様式本位

需要スケジュール

2：月2回以上

1：月1回

◯：使用するが、年により異なる

空欄：使用しない時期

流派	お稽古クラス	1月	2月	
池坊	中級～上級者			
小原流	初級者			
	中級～上級者			
草月流	初級～上級者			
龍生派	上級者			
古流理恩会	中級～上級者			

草月流
勅使河原蒼風

龍生派
生花　河骨の一種いけ

古流理恩会
生花
二花五葉　中流生（行型）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
					○	○				
					○	○				
					1	1	1			
					2	2				
					○	○				
			○	○	○	○				

各流派の求める規格

池　坊

生花

使用時期	7～8月
使用本数（花）（葉）	花：2本　葉（開き葉）：5～7枚　葉（巻き葉）：2～4枚
葉の長さ	開き葉：50ｃｍ　巻き葉：30ｃｍ
花の長さ	40ｃｍ
花の開花程度	開花が望ましい
実の使用	使用しない
そのほかポイント	葉、茎に傷がつくとポンプを使用しても水があがらない
検定試験について	**クラス**：入門下附後　**時期**：7～8月
花展での使用について	特に決まりはない

立花

使用時期	7～8月
使用本数（花）（葉）	花：2本　葉（開き葉）：3枚　葉（巻き葉）：2枚
葉の長さ	開き葉：40ｃｍ　巻き葉：30ｃｍ
花の長さ	30ｃｍ
花の開花程度	開花が望ましい
実の使用	使用しない
そのほかポイント	葉、茎に傷がつくとポンプを使用しても水があがらない
検定試験について	**クラス**：華掌下附後　**時期**：7～8月
花展での使用について	特に決まりはない

小原流

盛花・瓶花

使用時期	7～9月
使用本数（花）（葉）	花：2本　葉（開き葉）：8枚　葉（巻き葉）：2枚
葉の長さ	開き葉：35ｃｍくらい　巻き葉：15ｃｍくらい　※茎の長さを含む
葉のサイズ	開き葉：8～12ｃｍくらい　巻き葉：9ｃｍくらい
花の長さ	14～15ｃｍ
花の開花程度	花の開き始めから使用する
実の使用	秋口
そのほかポイント	ポンプを使って水あげをしてから、いける
検定試験について	**クラス**：主に中級から使用（准教授）　**時期**：7～9月
花展での使用について	夏から晩秋までの展覧会では必ず使う

草月流

花型は特に決まっていない

使用時期	7～8月
そのほかポイント	季節花材として使用される

龍生派

古典華（生花）

使用時期	7～8月
使用本数（花）（葉）	花：2本　葉（開き葉・巻き葉）：9～12枚
葉の長さ	開き葉：50～60ｃｍ　巻き葉：15～20ｃｍ
葉のサイズ	開葉は大・中・小が欲しい
花の長さ	20～30ｃｍ
花の開花程度	開花と蕾
実の使用	使用しない
そのほかポイント	水あげに注意が必要 入手が難しく稽古が出来ない年もある
検定試験について	一定の数を揃えるのが難しい　**時期**：7～8月
花展での使用について	水あげが大変難しいため、花展での使用は少ない

古流理恩会

生花（本手生・中流生・受流生・流生）

使用時期	5～9月
使用本数（花）（葉）	花：2本　葉（開き葉）：5（大～小）枚　葉（巻き葉）：2枚
葉の長さ	開き葉：小さいほど好ましい。最大15ｃｍ 巻き葉：小さいほど好ましい。最大10ｃｍ
葉のサイズ	開き葉：長い方が好ましい。25～30ｃｍ 巻き葉：長い方が好ましい。10ｃｍ以上
花の長さ	20～30ｃｍ
花の開花程度	固めの蕾と半開1本ずつが理想
実の使用	使用しない
そのほかポイント	葉に折れや傷がなく茎の太すぎないものがよい 開き葉は大～小の大きさが必要、また葉と茎の角度がないものが望ましい
検定試験について	**クラス**：中級～上級　**時期**：6～8月
花展での使用について	5～8月

生産のポイント

コウホネでは、千葉県の生産地の例を紹介します。

生産スケジュール

千葉県の例

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培管理					水を入れている期間							
出荷												

- 株分け作業、除草作業は適宜行っている。
- 水田の管理として耕運機で土をかき混ぜる作業があり、5年に1回程度が理想。実際は出来ておらず、株が混み合ってきている。また、水田の保水能力も下がり、水が貯まらなくなる傾向がある。
- 出荷は5～9月。
- 水はダムの供給期間に頼っており、5～8月末まで。9月以降は雨水に頼っている。

＊取材した生産地では、コウホネ圃場の周辺は水稲の畑。
数年前から水稲の収穫時期以降は水の供給が止まるようになったため、冬場に水を貯めておくことが出来ず、雑草の繁茂も多くなり、除草作業も増えてしまったそう。

生産のポイント

圃場の様子

● 水田を利用した千葉県君津市の圃場の様子

水田を利用し、２か所の圃場でコウホネを栽培している。スイレンと同じ圃場にあり、畦側の一角にコウホネを植えている。

写真は8月末撮影。出荷終盤の時期だったので、葉が黄化したものも多く見られた。

その他　栽培について

- 水田の土が固くなると、丈の長いものや状態の良いものが育ち難い。
- 圃場で株が混み合ってくると、株元に光が入らず花の立ち本数が少なくなる。また、葉が繁り過ぎて、葉の大きさが小さくなってしまうため、適度に株を整理している。

生産のポイント

収穫について

● 圃場で選別しながら、手で引き抜いて収穫する

写真は畦（圃場の脇）から手を伸ばして収穫している様子。畦から収穫できるものは、このように収穫している。

その他　収穫について

- 水田に入って収穫するときは、水中に手を伸ばし、茎を掴んで引き抜いている。
- 花、葉、巻葉それぞれ、状態のよいものを選別しながら収穫している。

生産のポイント

選別について

● 圃場での選別の目安

コウホネは圃場での収穫時に選別を行なっている。

花がオレンジ色になると、収穫しない。

花が終わり、結実しているもの。基本的には収穫しないが、注文があれば出荷している。

圃場で選別はしているが、一部出荷できないものが混じることもある。写真は収穫したものの、出荷時に取り除いたコウホネ（スイレンの葉も含まれている）。

出荷のポイント

コウホネは１杯という単位での出荷が基本。
水下がりが早いので乾燥しないように注意します。

出荷のポイント　出荷について

● 出荷のロット

コウホネ１杯の内訳。基本的に花２本、開き葉５枚、巻き葉２枚（花を１本予備として入れることもある）。

出荷のポイント

荷姿について

● 1杯ごとに濡れた新聞紙で包んで出荷している

1杯のセットの様子。

揃えた1杯を濡れた新聞紙で包む。水下がりが早く、水あげも難しいため、乾燥しないように工夫されている。

コウホネ マニュアル 情報提供にご協力いただいた皆様
千葉県　あいば農園様